

「熱中症救護袋」(NB-001)取扱説明

本製品は、熱中症及び低体温症の罹患者の初期救命を目的とした製品です。
熱中症の症状に気づいた際の迅速な行動が重篤化を防ぎ、命を救う鍵となります。

熱中症の場合は、次の手順に従って対応して下さい。

■ 意識がない、痙攣がある場合はすぐに119番通報して下さい。

- ・ 通報時に伝える内容。
- ・ 倒れている場所
- ・ 年齢／性別(わかる範囲で)
- ・ 意識／呼吸の状態

■ 罹患者へ無理に水分を飲ませないで下さい。

■ 使い方

【発見→評価→通報・移動→袋設置→収納/注水→冷却/観察→救急隊へ引き継ぎ】

- ① 熱中症救護袋に罹患者をのせて涼しい安全な場所へ移動して下さい。
- ② 袋を平らに広げ、罹患者を袋に寝かせる準備をして下さい。
- ③ 罹患者を袋の中央に仰向けに寝かせて下さい。
- ④ 衣類(ベルト/襟/シャツのボタンなど)を緩めて下さい。
- ⑤ 水道水を袋に注水して下さい(常温水で問題ありません)。
衣類が濡れても問題ありません。
- ⑥ 水道水が使えない場合は熱中症救護袋の収納袋をバケツとしてご利用ください。
- ⑦ 罹患者の気道確保を確認しながら冷却(注水)を行って下さい。
- ⑧ 約10分～15分を目安に冷却を行って下さい。
- ⑨ 意識の回復有無を確認して下さい。
回復すれば安静/水分補給して下さい。
回復しない場合は、無理に水を飲ませず引き続き、冷却/観察を継続して下さい。
体温計がある場合は、測定して下さい。
体温計がある場合は、38.5℃を下回るまで冷却を継続して下さい。
- ⑩ 救急隊が到着したら熱中症救護袋の足元に排水ファスナーを開き排水して下さい。
- ⑪ 救急隊へ引き継いで下さい。
発見時の状態/冷却方法と時間/反応の有無と変化を伝えて下さい。

※ 罹患者の気道確保と呼吸していることを常に確認して下さい。

低体温症の場合は、熱中症救護袋に罹患者を仰向けに寝かせてファスナーを閉めて体を温めて下さい。

■保証・メンテナンス

- ・ 本製品は、目的以外の使用はおやめください。
- ・ 使用頻度や保管環境により耐久性が変化します。年1回の点検を推奨します。
- ・ 直射日光や高温多湿を避け、屋内での保管・設置を推奨します。
- ・ 本製品は繰り返し使用できます。使用後は日陰で乾燥・清掃して保管して下さい。
- ・ 本製品は、ファスナーや縫製部分から注水した水が漏れることがありますが、使用上の問題はございません。

■ 熱中症救護袋

- ・ 設置場所： _____
- ・ 連絡先： _____
- ・ 管理者： _____